第54期（2006年４月期）日本語研修コース

鹿　島　　央

2005年度４月に日本語教育プログラム全体の大幅な見直しが実施され，１年が経過した。日本語研修コースは３クラスの体制で運営しているが，大使館推薦の研究留学生の日本語学習歴も様々なため対応に難しい点もでている。

１．研修生

A. 大使館推薦（研究留学生）

文部科学省より配置された大使館推薦の国費研究留学生は，17ヶ国28名で，進学先は名古屋大学23名，愛知工業大学１名，名古屋市立大学２名，南山大学が２名であった。今回，28名のうち５名は全学向けの日本語講座を受講した。内訳は，SJ201（全学標準日本語中級前半）２名, IJ212（全学集中日本語中級後半）２名, SJ301（全学標準日本語上級）１名であった。

B. 学内公募（大学推薦国費留学生）

今回は応募はなかった。

以上のように，第54期は研究留学生28名，うち23名が日本語研修コース，残り５名は全学向け日本語講座を受講した。

２．クラス編成

授業は，３クラス編成とし，専任教員２名，非常勤講師11名の計13名が担当した。今期の23名の中には，全くの初級ではなく多少の学習を行っているものがあり，７名については別のカリキュラムとした。残りの16名については全くの初級レベルとして授業をおこなったが，この内１名は研究の都合により，指導教員の了承のもと中途より初級レベル(SJ101)に変更した。

３．時間割と日程

授業はこれまでのように月曜日から金曜日まで，午前８時45分から午後２時30分まで90分授業を３コマ行った。

コースの日程は以下の通りである。

４月11日㈫　開講式，４月12日㈬　授業開始，夏季休業７月24日～８月31日，９月１日㈮　授業再開，９月12日㈫　修了式。夏季休業中，希望者は全学向け夏季集中日本語講座（７月24日～８月８日）を受講した。

今年度より，見学旅行を実施することとし，９月11日にバスで世界遺産である白川郷を訪れた。

４．カリキュラム

⑴　未習クラス（２クラス）

カリキュラムは，これまでのように⑴主教材 *A Course in Modern Japanese [Revised Edition], Vols.1&2*（名古屋大学日本語教育研究グループ編）を中心とする授業，⑵その他の活動（ホームビジット，自分に関する事柄について話す，書く活動など）⑶専門について話す，の３つで構成した。以下に，概要を報告する。

ⓐ　教科書を中心とする授業（１～15週）

夏休み前までの15週間で主教材である *A Course in Modern Japanese, Vols.1&2* が終了するようにカリキュラムを編成した。

・ドリル（各課の文法練習）
　今期から活用形の定着を図るため，７課終了時から２限目に“Conjugation Quiz”をとりいれた。WebCMJ は各課で行った。
・Dialogue（会話）
　各課のはじめに小冊子“Sound Practice”を用いて発音練習を行った。
・Discourse Practice & Activity
　会話の運用練習として各課の Discourse Practice にもとづいて口頭練習を行った。指導教員と電話で，あるいは対面でアポイントをとる練習など。
・Aural Comprehension
・Reading Comprehension

(b) その他の活動

・話す練習

まとまりのある話をする練習として，これまでと同じテーマ（「たのしかったこと」「趣味について」「国の観光地」「国との違いについて」）について原稿を書いてから話す活動を行った。クラスメンバーはテーマごとに変えて行った。日本人ゲストにインタビューする活動については２度行った。

・書く練習

話す練習の原稿を作成することを書く練習として行なった。ワープロについても使用説明，練習を行った。

・Pronunciation Practice

日本語の発音システムを７回にわたり導入する「SoundSystem」という全体クラスと，会話の時間に５分程度行う「Sound Practice」という発音練習の時間を設定した。教材は，自作の“Sound Practice”である。

・ホームビジットプログラム

ホームビジットプログラムも例年のように第13週目の土，日に実施した。教科書の18課が終了した時点での訪問であり，実際に日本語がどの程度使えるのかを実地に体験するいい機会になっている。同時に日本人の日常生活を知ることも目的であり，学生には好評な活動である。

(c) 「専門について話す」（第15週）

個別指導を行った後，各留学生の専門領域について発表した。発表は207講義室で行った。パワーポイントの使用が多くなった。

(2) 既習クラス（１クラス）

カリキュラムは，(1)主教材 *A Course in Modern Japanese [Revised Edition], Vols.1&2*（名古屋大学日本語教育研究グループ編）を中心とする授業，(2)その他の活動（ホームビジット，自分に関する事柄について話す，書く活動など）(3)専門について話す，の３つで構成したことは未習クラスと同じである。ただ，主教材の Vol.1は６週目にあたる５月中旬で終了し，その後，Vol.2を中心に授業を13週目まで行い，夏休み前までは，初中級のシラバスで聴解，読解，文法，会話を中心とした。教室外活動として，インタビュー活動もとりいれた。

５．まとめと問題点

日本語プログラムの改革実施から１年がすぎ，他のコースでもいろいろな問題が浮上し，18年度はさらに改善策を検討することに追われた年であった。日本語研修コースでは，時間数の削減によりこれまで機能していた個別対応の時間がなくなり，学習者一人一人へのきめ細かい対応がコース全体としてできなくなった。今期は，他大学へ進学する学生で，研究上の都合により金曜日ごとに欠席を余儀無くされるために日本語に集中できない者があった。他にも，学習上の不適応から，日本語習得がおくれる留学生が２名みられた。このような学生には専任ができるだけ対応したが，両者の時間的な制約から十分な手当てができなかった。この点は，教授法の改善で対応すべく検討し，次年度に対応策を実施した。